

1. 評価結果概要表

作成日 2007年4月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0870102142
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループ ホーム いっしん館 水戸
所在地 (電話番号)	水戸市 大塚町 釜久保 1612-14 (電話) 029-253-6547

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年4月24日	評価確定日	平成19年11月14日

【情報提供票より】(19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 13 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 16 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2階 建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(但し入居2年目から)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	8 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	59 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田口同仁クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の一角に2階建て2ユニットの建物は、近隣の住宅の中に違和感なく建てられ通常の民家の雰囲気を持っている。その中で入居者は職員の明るい雰囲気の中のんびりと個人の時間を持って生活されている。2階建てのユニットは、各階の入居者はご近所付き合いのように行き来することが出来る。入居者の役割と希望を重視したケアの提供は、入居者単独での散歩をはじめ自由に入浴が出来る配慮や入居者全員での一泊旅行などが実施されており、入居者の外出の支援を積極的に行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画や申し送りに対する要改善点を職員間で話し合い、全員でのアセスメントとそれを踏まえ介護計画が立てられるよう工夫されている。その内容は現在の介護計画や記録に十分に反映され改善する努力が十分に見られた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意味や内容を職員全員で理解し取り組まれている。その内容や外部評価への取り組みは職員のヒアリングからもうかがうことが出来た。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域へのかかわりや近隣に溶け込んだホームに対し、啓発活動が難しいと感じた。近隣は新規の住宅が多い中、管理者を含め職員全体での啓発活動に取り組まれているが、近隣の理解や協力体制に希薄さを感じた。今後の努力に期待される。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見、苦情、不安への対応は意見箱を設置したり家族への入居者の状況報告などを利用し意見の聴取に心がけられている。家族からの意見や要望は会社全体への要望ととらえ、会社全体で改善されるよう工夫され実施している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との連携にやや希薄さを感じる、新規の住宅が多く、近隣との付き合いが少ない中、啓発活動には困難を生じる事が多いと思うが今後の努力に期待される。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の基本理念をスタッフルーム内に掲示し、職員間で話し合い、常時目につくようにしている。管理者は職員全体に啓発しカンファレンスや会議の時などで理念について積極的に話している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を周知し日々の業務に取り組んでいる。ミーティングや充実した社内研修を通し基本理念の理解を深めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流を深めるため地域のボランティアを招き活動してもらっている。	○	入居者との散歩や買い物など近隣の施設や商店を利用し近隣住民との接触を多く持つように努力されている。今後は、自治会や近隣の住民との交流を多く持ち地域との付き合いの充実化に取り組んでいただきたい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が外部評価の意義を理解し、評価項目を職員全体で話し合い、改善に取り組んでいる。外部からの目としてケアの質を高めるための第三者評価と理解されている		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月に第一回目の会議開催の予定がある。行政や民生委員、家族の参加予定となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へは、パンフレットなどを持ち定期的に伺いながら行き来する機会を増やしている		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	いっしん便りを毎月家族に送付し利用者の日常の様子や身体状況を伝えている。病院などに通院した場合はその都度家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見をもらっている。職員の意識の向上ケア技術の向上ができるよう話し合いが持たれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規事業所の開設に伴い人事異動は最小限にしている。利用者の馴染みの職員の移動はなるべく避けるように心がけている。		月に2回職員の交換研修を行い、同グループ内でケアの質の向上に努めている。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内での研修を充実させ、ケアの質を向上する工夫がある。	○	内部での研修が充実しておりその分外部の研修への参加がやや希薄になっている。今後年間計画を立てるなど配慮され職員の外部研修への意欲の向上に努力されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会を持ち意見交換などの場を設けている。そのなかでお互いのケアの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が安心して過ごせるよう入居後は家族との連絡を密にし情報を交換しサービスを提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者が常に人生の先輩であるということを念頭に置き尊厳を守るケアの提供を心がけている。入居者に意見を聞き日常の生活場面に反映させている。		入居者個人に合わせた呼び名の工夫や入居者の得意なものへの働きかけを積極的に行いその人らしい生活の支援を行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿い生活してもらえよう配慮している。本人の希望により1人で散歩出来るよう工夫するなど細かな配慮が見られる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用したケアプランを作成している。家族の意見が具体的に表現できるよう独自の工夫がある。職員間でもカンファレンスなどを開き意見を出し合い作成している。		前回の評価から職員間で話し合いケアプランの充実化に努力されている。今後もこの状況を維持しケアプランをよりよいものにしていただきたいと思う。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとの介護計画見直しを行っている。また状況の変化に応じ入居者や家族の意見を踏まえ見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族宿泊の提供などホーム独自の機能を生かし家族と入居者へのサービスの提供を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を確保し適切な医療が入居者に提供できるよう配慮している。かかりつけ医及び提携病院とは24時間の連絡が可能になっている。夜勤職員の不安も軽減されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向をもとに医師・職員間で終末期のケアをチームで支えている。	○	終末期への職員の意識は高く最後までケアを提供したいという気持ちが強く感じることができた。今後は終末期ケアを提供するにあたり、医療と介護の両立の面から方針を決め終末期ケアを提供できるよう努力されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報書庫に保管し、外部に出さない配慮がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体のサービスの提供を心がけている。特に入居者個人の1人の時間を確保できるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は旬の食材を献立に取り込み食に感心が持てるよう心がけている。また訪問理容や入居者の希望する理髪店などへの外出の支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定をせずに入居者の希望にあわせ入浴の支援を行っている。また入浴時には馴染みの桶やタオルを持ち入浴するなど入浴を楽しむ工夫がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたむ、食後の後片付けをするなど、入居者の出来ることを把握し役割を持って生活を楽しんでもらう工夫がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩や買い物外出など入居者の希望にあわせ支援している。また家族との慎重な協議を持ち入居者1人での外出の支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯を考慮し施錠している。日中はセンサーを利用し入居者の安全に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携を持ち防災訓練を行っている。2階フロアからの避難方法など職員間で周知されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取量を把握し状況に応じ主食・副食・水分摂取量を記載し健康状態把握目安となるよう工夫している。	○	高齢者の特徴を踏まえ水分の摂取量や食事量は、毎日記録し入居者の急な状況変化に対応できるような取り組みが期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの調節、各居室の温度管理テレビの音や職員の会話など音や光など細かく配慮し入居者に不安を与えないよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや和室のコタツなど馴染みの物品を利用し入居者個人の空間の確保を提供し一人一人の時間が持てるよう工夫している。		